

笹川保健財団 奨学金支援
助成番号：2020B2-

2021年 3月 1日

公益財団法人 笹川保健財団
会長 喜多悦子 殿

2020年度奨学金支援
完了報告書

標記について、下記の通り完了報告書を添付し提出いたします。

記

進学先 King's College London

氏名 岸野 恵

1. 活動の内容・実施経過

2020年4月に King's College London の博士課程に入学した。COVID-19の影響により2020年3月現在までオフィスが開くことはなかったため、各種トレーニングコースや指導教官とのミーティングは全てオンラインで実施された。留学の目的である4点について活動の内容と経過を述べる。

1) アドバンス・ケア・プランニング

アドバンス・ケア・プランニングをテーマに、指導教官より1-2週間に1度オンラインミーティングで指導を受け進めている。また、指導教官2名・アドバイザー2名・統括1名からなる論文進捗委員会が、初回は3ヶ月目、以降半年毎に1時間のミーティングで進捗状況を確認する体制がとられており、助言を得ることができている。英国の博士課程では約1年のタイミングを目処に、この委員会による進級判定のための口頭諮問がなされることが多く、現在はその準備を進めている。

2) 研究手法と PhD 学生としてのトレーニング

大学が主催するトレーニングコースは徐々にオンライン化されたため、研究に関する内容の他、PhD の過程に必要とされる知識や技術に関するトレーニング（データ解析方法、臨床研究におけるインフォームド・コンセントの取得など）を選択し受講した。

PhD の学生はスタッフと類似した立場とみなされており、各種ミーティングなどに参加することができる。私の所属する Cicely Saunders Institute では、毎週水曜日に1時間の定例ミーティングが開催されており、第1週は抄読会、第2水曜は研究手法に関する勉強会、第3週は研究者間の交流（2-3名が、進行中の研究の概要や結果を共有し参加者全員で議論する）、第4週は運営ミーティングである。ミーティングへの参加を通して研究や関連する事柄の学びを深めており、1月には自身の研究について紹介する機会を得た。

3) 緩和ケア領域の研究者とのネットワーキング

前述のミーティングや PhD サポートグループ（学生が自由に参加するインフォーマルなミーティング）などを通して交流を深めている。

4) 英語力

ロックダウンにより現地での交流が限られていたことは残念であったが、オンライン

のミーティングなどを通してコミュニケーションを図った。それでも機会は少なかつたため、留学前に開始していたオンライン英会話も継続した。

2. 活動の成果

研究疑問を定式化し、デザインを決定して、現在プロトコルを作成している段階である。プロジェクト全体は、1) 系統的レビューとモデル構築、2) 質的インタビューによるモデルの修正と介入の開発、3) 混合研究法を用いた実施可能性検証の 3 つの段階で構成される。

- 1) 系統的レビューは、最終の統合の段階である。
- 2) 質的研究は、プロトコルを完成させ、倫理承認申請中である（「一部修正後に承認」の審査結果を得て、修正後の再審査の結果を待っている）。また、研究フィールド（日本の病院 2 箇所）を確保した。
- 3) 混合研究は、プロトコル作成段階である。

また、Patient Public Involvement (PPI) の概念や実践について学び、自身の研究に取り入れている。研究結果が還元されるべき対象である当事者（がんを抱える人々とそのご家族）との協働という視点から、全国がん患者団体連合会との連携に着手した。

3. 今後の課題

- 1) 系統的レビューを完成させ投稿し、その過程において論文執筆と投稿について学ぶ。
- 2) 質的インタビューの経験はあるが、さらに研修を重ね、質の高いデータ収集ができることと参加者の負担に最大限配慮したインタビューができることが課題である。
- 3) 混合研究法や介入開発に必要な知識を得る。
- 4) COVID-19 の影響への対応：研究フィールドの変更などを余儀なくされる可能性がある。協力者の安全を確保し、研究を進めるための具体的な工夫を考案できることが課題である。
- 5) この度の留学の目的のいずれにおいても、達成するためには英語能力の向上に引き続き努める必要がある。データ収集期間以外はロンドンで過ごす予定であり、大学が開校することにも期待したい。

4. 活動の成果等の公表予定

各段階の成果は、それぞれ論文にまとめ、がんまたは緩和ケア領域の国際誌への投稿や学会での発表を予定している。研究過程における PPI や介入開発過程についても同様に論文執筆や学会発表を検討している。